

学 年	中学校3年	授業形態	必修・3クラス同時展開・週2時間 3クラスを6人で担当
テーマ	自己の生きる地域と世界について学ぶ 「地域からの世界理解，世界からの地域理解をめざして」		
キーワード	地域，世界，グローバルな視点，ローカルな視点，生活者		
概 要	○ 生徒がいま生き，これから生きていこうとしている「地域」や「世界」について，ローカルな視点とグローバルな視点から学習することによって，その形成・発展を担う主体としての生徒の成長をめざす。 ○ 学習内容は大きく「テーマ学習」と「テーマ研究」に分かれ，前者では，ある特定「地域」を取り上げて「世界」の問題について考え，後者では，「世界」の問題から生徒がいま生きている「地域」を見つめる。		

1. 学習の目標・ねらい

「LIFEⅢ」のねらいは，「地域」や「世界」におけるよき「生活者」としての生徒の成長を保障することにある。よき「生活者」とは，「自ら学び，自ら考えながら，よりよい社会生活を送る(送ろうとする)」人間のひとつの理想型である。こうした人間像を求めて，「LIFEⅢ」では，「地域」を出発点に「世界」の問題を考えたり，逆に「世界」の問題から「地域」を見つめ直したりすることによって，自己が生活する「地域」や「世界」についての理解を深め，その形成や発展を担うべき主体としての自覚とよりよく生きようとする態度を育てることをめざす。

このようなねらいを達成するため，「LIFEⅢ」は「テーマ学習」と「テーマ研究」で構成する。「テーマ学習」では，教師の支援を受けながら，教師が選定した「地域」についてさまざまな角度から調査したり，自ら発見したその「地域」に関するテーマを追求したりすることによって，ローカルな視点から「世界」の問題(概念)を考える。

また，「テーマ研究」では，教師が設定した「世界」の問題(概念)群の中から，自己の興味や関心に基づいて問題(概念)を選択して具体的なテーマを設定し，教師の支援の下にそのテーマを自己の生活する「地域」に追究することによって，グローバルな視点から自己の生活している「地域」を見つめ直す。

以上のことを，方法・内容・態度の観点から目標としてまとめると，次のようになる。

- ① 「地域」や「世界」の問題に関する情報を収集・整理・分析する能力を育て，自らそれらの問題の解決や探求ができるようにする。
- ② 「地域」や「世界」の問題に関する情報をまとめ説明し，それらを表現し伝えることができるようにする。
- ③ 「地域」や「世界」の問題に関心を持ち，それらの問題の解決や探求の活動に主体的に創造的に取り組む態度を育て，それらの形成や発展を担うべき主体としての自覚を深める。

2. 育まれる能力

- (1) 「地域」や「世界」の問題に関する情報を収集・整理し，分析・吟味する能力

- (2) 「地域」や「世界」の問題に関する情報をまとめ・説明し、表現・伝達する能力
- (3) 「地域」や「世界」の問題に関するテーマを、真理性や正当性に基づいて、意欲的に探求する能力

3. 中・高6カ年における学習の位置づけ

「生きる力」の育成をめざした6カ年にわたる「総合的な学習」の時間において、中学校3年生の「LIFEⅢ」は、生徒たち自身が今生き、これから生きていこうとする「場」についての学習として位置づけることができる。「LIFEⅢ」での「場」の学習によって、「場」そのものの理解のみならず、「場」の探求を通して批判的な思考力も生まれ、自己のポジショナリティについても考えを深めることができ、「生きる力」は一層強固なものとなろう。これによって、「地域」や「世界」の形成や発展の担い手としての自覚も深まり、よき「生活者」への成長も期待されるのである。

また、中学校3年生は、中・高6カ年の大きな節目の年でもある。その意味から、中学校3カ年の締めくくりとして、「LIFEⅢ」では、学習の成果を『研究論文』にまとめる。

4. 指導上の工夫とポイント

(1) 主題に迫るための手だて

テーマの発見、問題の解決や探求、仮説の検証などのため、資料館・博物館の活用、インターネットの活用、フィールドワークなどの見学・調査活動や体験的な活動を適宜計画し行う。

(2) 学習指導・支援体制

3クラスを6人の教官のTTで担当し、各クラスの毎時間の学習の指導・支援は2人の教官のTTで行う。各クラスの担当教官は、ローテーションする。

(3) 関連する教科等

「LIFEⅢ」は「場」の学習という性格上、社会科がその中核となるが、設定される概念やテーマとの関係で、他のあらゆる教科が関連する可能性がある。また、社会見学旅行が「単元1」の中に位置づけられ、特別教育活動の領域とも深くかかわる。さらに、「単元3」では、「世界から地域を見つめる」先駆的な活動をしている人々についても学習し、道徳の領域ともかかわりをもたせることも考えられる。

5. 評価の観点

「LIFEⅢ」の3つの目標と能力に対応して、次の観点から評価する。

- (1) 《思考・技能》情報を収集・整理し、分析・吟味できたか。
- (2) 《知識・表現》情報をまとめ説明し、表現・伝達することができたか。
- (3) 《関心・態度》意欲をもって創造的な探求に取り組み、関心を深めることができたか。

6. 内容と指導計画 (70時間)

月	単元	学習のテーマ・ねらい	学習の具体的内容
4	0. はじめに	・「LIFE III」の説明	・「LIFE III」のねらいと学習内容、年間計画、取り上げる地域のなどの説明と確認。
5	《単元1.「長崎」から世界を考える》 (1) 講義	① 単元1の説明 講義「長崎の地理と歴史」 国際都市としての長崎の歴史性に気づく。 ② 「テーマ領域」の調べ学習 長崎を学習する意味に気づき自分の関心を焦点化する。	・ 資料集とワークシートを利用し、長崎の地理と歴史について学習 〔長崎の位置と地理的条件 国際都市としての長崎の歴史〕 ・ 資料を参考に、テーマ領域ごとに気づいたことをまとめる。6名の指導教官がそれぞれ具体的な1テーマ領域を設定し担当。 《テーマ領域の事例》 ----- A.自然, B.歴史 C.文学, D.食文化, E.産業, F.平和 など
6	(2) 研究の準備	① グループ分けとテーマの決定 ② 研究計画の立案と仕事の分担	・ 1テーマ領域6～7名のグループに分かれる。指導教官は、各クラス1グループ、全体で3グループを担当する。 ・ テーマの設定や情報収集の方法、各自の役割などを確認し、研究計画書を作成する。
7	(3) 研究	① グループ毎に調べ学習 ② 研究成果を練り上げる ③ 研究のまとめ	・ 研究計画に基づき、文献やインターネットなどを活用して調べる。 ・ 領域テーマ毎に、研究成果を発表し評価し合い、研究成果を練り上げる。 ・ 研究内容と世界概念との関係を考える。 ・ 研究成果をもとに、研究レポートとして『長崎案内記』を作成する。
8	(4) まとめ	① 研究報告会 ② フィールドワークの準備 ③ フィールドワーク	・ 研究成果をもとに、研究レポートとして『長崎案内記』を作成する。 ・ クラス毎に研究報告会を行い、評価表に基づいて互いに評価し合う。 ・ 『案内記』をもとに長崎フィールドワーク目的地を選定し、その計画を立てる。 ・ 社会見学旅行を利用し、長崎のフィールドワークを行い、研究成果を確かめる。
9	《単元2.「沖縄」から世界を考える》 (1) 講義	① 単元2の説明 ② 講義「沖縄の地理と歴史」 日本列島社会の多様性に気づく。 ③ 「テーマ領域」の調べ学習 沖縄を学習する意味に気づき自分の関心を焦点化する。	・ 資料集とワークシートを利用し、沖縄の地理と歴史について学習。 〔沖縄の位置と地理的条件 琉球・沖縄史の時期区分〕 ・ 資料を参考に、テーマ領域ごとに気づいたことをまとめる。 《テーマ領域の事例》 ----- A.自然, B.歴史, C.産業, D.食文化, E.平和 F.芸術文化 など
10			・ 6名の指導教官がそれぞれ具体的な1テーマ領域を設定し担当する。

月	単元	学習のテーマ・ねらい	学習の具体的内容
11	(2) 研究の準備	① グループ分けとテーマの決定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 テーマ領域 6～7名のグループに分かれる。指導教官は、各クラス1グループ、全体で3グループを担当する。 ・ テーマの設定や情報収集の方法、各自の役割などを確認し、研究計画書を作成する。 ・ 研究計画に基づき、文献やインターネットなど活用して調べる。 ・ 研究内容と世界概念との関係を考える。 ・ 各グループの研究報告書の作成 ・ 各クラスで研究発表会を行い、評価表に基づいて、互いに評価し合う。 ・ 各クラスで『研究ノート』を作成し、各クラスで評価し合う。
	(3) 研究	② 研究計画の立案と仕事の分担 ① グループ毎に調べ学習 ② 研究のまとめ	
	(4) まとめ	① 研究発表会 ② 『『沖縄』研究ノート』作成	
12	《単元3. 世界から「私たちの地域」を見つめる》		<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代世界の諸問題を「文化」「共生」「変化」「希少性」「対立」「公正」などの概念(以下、世界概念と称す)から説明する。 ・ 現代世界の具体的な諸問題を列挙し、世界概念との関係を確認する。 ・ テーマ設定のため、指導教官はそれぞれ具体的な1テーマ領域を設定し、生徒に選択させる。 《テーマ領域の事例》 A.自然, B.文学, C.歴史, D.産業 E.環境 F.くらし ・ テーマ領域に関係する身近な地域の諸問題の情報を新聞などを利用して探す。また、地域の博物館や資料館、市民センターなどを訪れる。 ・ 身近な地域に追求するテーマを設定し、研究計画書を作成する。 ・ 研究計画に基づき、文献やインターネットなどを利用して情報を収集する。 ・ 地域の博物館や資料館、市民センターなどを訪れ情報を収集する。 ・ 設定したテーマについて、地域の専門家や先駆的な活動をしている人の話を聞く。 ・ 身近な地域の諸問題と世界概念との関係を考える。 ・ 領域別に研究発表会を行い、評価表に基づき、互いに評価し合う。 ・ 各クラスごとに『修了論文集』を作成し、評価し合う。
	(1) 講義	・ 単元3の説明 ① 講義「現代世界の諸問題」 ② 世界概念の調べ学習	
	(2) 研究の準備	① テーマの発見 ② 研究計画の立案	
	(3) 研究	① 領域別に各自で調べ学習	
1			
2		② 研究のまとめ	
3	(4) まとめ	① 『修了論文集』の作成	